

# SENKO REPORT

Focusing on the Logistics Information Company

流通情報企業の確立を目指して

## 第93期 中間報告書

平成21年4月1日～平成21年9月30日

- 1P 株主の皆さまへ
- 3P 部門別の概況
- 4P 事業別(品目別)の概況
- 5P **特集** 中期経営計画の全体像と実現に向けた取り組み  
「流通情報企業の確立」を目指して
- 6P 主な業績の推移
- 7P 連結財務諸表
- 9P 会社概要
- 10P 株式情報



SENKO

## 中期経営三カ年計画の最終年度、 目標とする「流通情報企業の確立」に向けて邁進します。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに第93期中間期の営業概況と決算についてご報告申し上げます。

**新規拠点の開設やM&Aの実施など、積極的な業務開拓を推進しました。**

当第2四半期連結累計期間(中間期)における日本経済は、昨年来の世界的な景気悪化がようやく下げ止まるとともに、輸出や生産の持ち直しが鮮明になってきており、緩やかながら回復基調で推移しております。しかしながらその一方で、設備の過剰感、高い失業率などの不安材料もあり、先行き不透明な状況が続いています。物流業界におきましても、景気は回復基調にあるものの昨年の水準には至っておらず、当社の主要取扱品目である石化樹脂物流や住宅物流も低迷しており、依然として厳しい経営環境にあります。

このような環境の中、当社グループは「流通情報企業

### ※流通情報企業とは？

企業や消費者に最大の価値を提供するために、生産から消費までサプライチェーン全般の効率化を目指す企業。流通全般に関する情報をリアルタイムで収集・分析し、ITを駆使したロジスティクス・システムと統合することで、最適な流通ソリューション(通信とコンピューターを活用し、問題解決をはかる)を実現します。

の確立」を目指した中期経営三ヵ年計画の最終年度として、「流通SCM(サプライチェーン・マネジメント)」の提供によって、量販店・小売物流を中心とした業務開拓を推進し、6月に「船橋ファッションロジスティクスセンター」を開設するなど、新たな物流拠点も展開いたしました。また、7月には家庭用品の卸売りを手がける「株式会社丸藤」を当社グループに迎え、商流機能の拡大も進めております。

この結果、新規拠点の開設並びにM&Aによる増収効果はあったものの、既存物量の落ち込みが響き、連結営業収益は1,079億94百万円(対前年同期比1.8%減)となりました。一方、利益面ではコストの削減、見直し等により連結営業利益は27億63百万円(同2.6%増)、連結経常利益は26億98百万円(同2.2%増)、連結四半期純利益は12億87百万円(同1.1%減)となりました。

### 安定配当を基本に業績連動を考慮し、利益還元に努めます。

当社は、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆さまへの利益還元を充実させるため、安定した配当に加えて、業績連動を考慮した配当の実施を利益配分に関する

基本方針としております。

当期の中間配当金につきましては、当初予定しておりました1株当たり4円といたしました。期末配当につきましても1株当たり4円とし、年間配当金は1株当たり8円とさせていただきます予定です。

### 厳しい環境下、さらなるローコスト化、効率化に努めてまいります。

今後、物流業界においては、国内外輸送量が緩やかに回復すると予測されますが、依然として不安要素が多い状況にあり、経営環境の厳しさは続くと思われまます。このような環境の中、当社グループは引き続き、生産性向上と生産体制の見直しを図り、さらなるローコスト化および効率化の推進、低収益事業改善の継続推進によって、収益確保に努めてまいります。さらに、環境・安全対策の強化にも積極的に取り組み、企業としての社会的責任(CSR)を全うしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

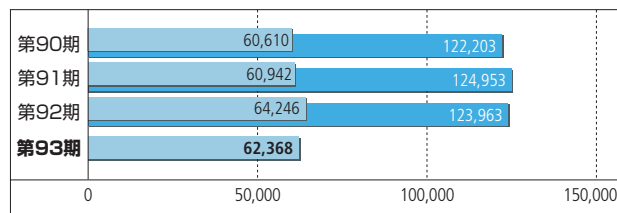
平成21年12月  
代表取締役社長 **福田 泰久**

免責事項：本報告書で記述されている将来についての事項などは、予測しない経済状況の変化など様々な要因の影響を受けるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

会計上の各部門(セグメント)について、当中間期の成果を報告します

運送事業部門

事業収入の推移 中間期 期末 単位:百万円

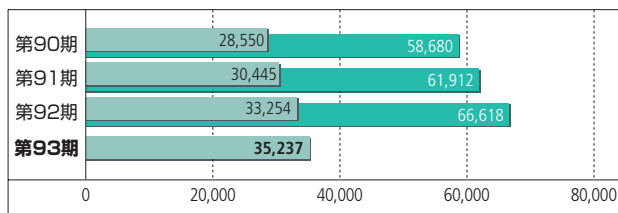


貨物自動車運送事業のほか、鉄道利用運送、海上運送や内航運送、港湾運送、国際物流などの事業から構成される部門です。

当中間期におきましては、住宅物流及び石化樹脂物流の減少により、事業収入は623億68百万円と対前年同期比2.9%の減収となりました。

流通加工事業部門

事業収入の推移 中間期 期末 単位:百万円

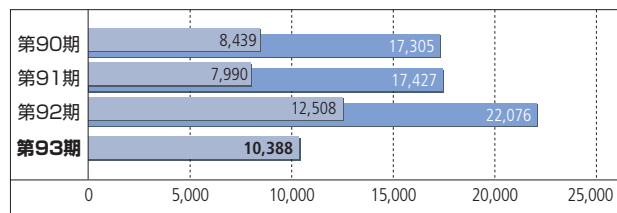


倉庫業、お客さまの構内における原材料および製品の包装・移動等の作業、物流センターの運営などの事業から構成される部門です。

当中間期におきましては、前期に開設した「市川ファッションロジスティクスセンター」、「内守谷新倉庫」等の開設効果により、事業収入は352億37百万円と対前年同期比6.0%の増収となりました。

その他事業部門

事業収入の推移 中間期 期末 単位:百万円



石油類販売、情報処理機器販売、情報処理受託、自動車修理などの事業から構成される部門です。運送事業・流通加工事業の2部門に含まれない事業を主要サービスとしています。

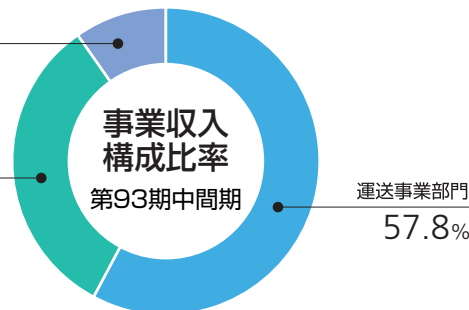
当中間期におきましては、石油販売事業における販売単価下落による影響及び商事販売事業における建設資材の販売数量減少等により、事業収入は103億88百万円と対前年同期比16.9%の減収となりました。

その他事業部門

9.6%

流通加工事業部門

32.6%



事業収入  
構成比率  
第93期中間期

運送事業部門  
57.8%

## 事業別(品目別)の概況

会計上のセグメントとは別に、当社グループが展開する「事業の内容・取り扱う品目」をわかりやすくご紹介するために、事業別(品目別)の当中間期における成果を報告します。



### 流通ロジスティクス事業

売上高は305.2億円と対前年同期比48.0%の増収となりました。



量販店・小売物流の増収に加え、アパレル物流の分野で、東京納品代行(株)の子会社化、大型拠点の開設、専門チェーン店向け物流の拡大等により、増収となりました。



### 住宅物流事業

売上高は243.5億円と対前年同期比14.7%の減収となりました。



工場発(住宅メーカーさまから施工現場へ必要な資材を必要な時期に直送するサービス)貨物、住宅資材貨物ともに物量の減少があり、減収となりました。



### 石化・樹脂物流事業

売上高は158.3億円と対前年同期比17.0%の減収となりました。



樹脂原料、成型加工品ともに景気低迷の影響を受けた物量減少傾向が続いており、減収となりました。



### その他事業

売上高は373.0億円と対前年同期比10.7%の減収となりました。

引越事業におけるイヌイ運送(株)の子会社化による増収、流通事業における(株)丸藤の子会社化による増収はあったものの、石油単価下落の影響、商事事業の減収があり、その他事業としては減収となりました。

## 事業別(品目別)売上高

	前中間期 億円	当中間期 億円	増減額 億円	増減率 %
流通ロジスティクス事業	206.2	305.2	99.0	↑48.0
住宅物流事業	285.3	243.5	△41.9	↓14.7
石化・樹脂物流事業	190.7	158.3	△32.3	↓17.0
その他事業	417.9	373.0	△44.9	↓10.7
合計	1,100.1	1,079.9	△20.2	↓1.8

# 「流通情報企業の確立」を目指して

当社グループが掲げている三か年の中期経営計画(平成19年4月から平成22年3月まで)は本年最終年度を迎えました。これまで、事業戦略として主力3事業、重点強化事業、新規事業におけるさまざまな展開をおこなってきました。これからも「流通情報企業の確立」に向けた計画を力強く推進していきます。

## 主力3事業

 住宅物流事業

 石化・樹脂物流事業

 流通ロジスティクス事業

実物流の提供に加え、情報・商流を具備した流通SCMを提供し、顧客の流通業務を包括的に受託するビジネスパートナーへ。

## 重点強化事業

 国際物流事業

 商事事業

 情報事業

 3PLソリューション事業

流通情報企業を確立するために必要な事業機能として、主力3事業に匹敵する事業規模・事業体制へと育成・強化。

## 新規事業

 医療関連事業

 生活関連事業

 人材サポート事業

 輸送関連事業

次代の主力事業の創出と事業拡大を目指し、新たな売上基盤となる分野・事業領域へ進出。

## 流通ロジスティクス事業で

### 「船橋ファッションロジスティクスセンター」を開設

当社は本年7月、当社初の百貨店通販物流センター「船橋ファッションロジスティクスセンター」(千葉県船橋市)を本格稼働させました。同センターは、主に大手百貨店さまが全国展開する通販事業における商品入荷・検品から保管、流通加工、出荷に至るまでの一連の物流センター業務を担っています。今後も「ファッション物流はセンコー」というブランドの確立を図り、なお一層、ファッション業界における物流効率化ニーズに応えていく考えです。



### 百貨店物流2社を子会社化

当社は本年10月1日をもって、エイチ・ツー・オーリテイリング株式会社さま(大阪市)が保有する江坂運輸株式会社(同)および、株式会社阪急阪神百貨店さま(同)が保有する阪神運送株式会社(兵庫県西宮市)の発行済み株式を100%譲受しました。今後、2社の持つ百貨店物流機能に、当社のメーカー・ベンダー物流機能および納品代行機能を加え、百貨店事業をベースとした「流通SCM」の構築を目指します。

## 国際物流事業で

### 中国・深圳にチェーンストア向け物流センターを開設

当社は本年6月1日に、中国・深圳で「深圳物流センター」を稼働させました。同センターは当社初のチェーンストア向け海外物流センターで、店舗への配送業務ならびに集荷・仕分け・保管業務にあたっています。同センターの開設を契機とし、中国において日本の運営方法と情報システムを導入することで、現地の物流高度化と差別化を図り、大規模物流センターの受注につなげたいと考えています。

## 商事事業で

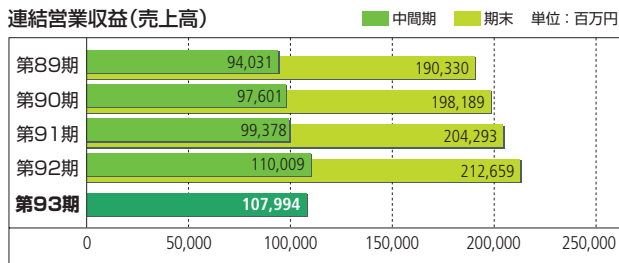
### 株式会社丸藤を子会社化

当社は本年7月1日をもって、生協さま向け家庭用品卸売大手の株式会社丸藤(神戸市)を完全子会社化しました。今回の子会社化で、当社の「量販・小売分野の物流ノウハウ」と、丸藤の「生協を中心とした小売業への販売力」を一体化し、商品調達からエンドユーザーへの配送までのサプライチェーンを構築するなど、新たなビジネスモデルをつくり上げます。

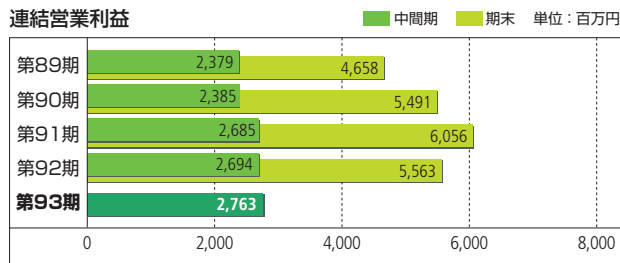
## 主な業績の推移

	第89期 (平成17年4月1日～ 平成18年3月31日)	第90期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)	第91期 (平成19年4月1日～ 平成20年3月31日)	第92期 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	当中間期 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)
連結営業収益(売上高) (百万円)	190,330	198,189	204,293	212,659	<b>107,994</b>
連結営業利益 (百万円)	4,658	5,491	6,056	5,563	<b>2,763</b>
連結経常利益 (百万円)	4,795	5,551	6,060	5,533	<b>2,698</b>
連結四半期(当期)純利益 (百万円)	2,290	2,535	3,061	2,848	<b>1,287</b>
連結一株当たり四半期(当期)純利益 (円)	20.52	22.80	27.70	25.95	<b>11.72</b>
連結一株当たり純資産 (円)	419.04	433.57	454.03	470.48	<b>479.10</b>

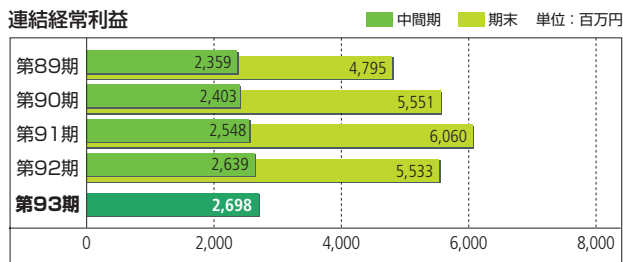
連結営業収益(売上高)



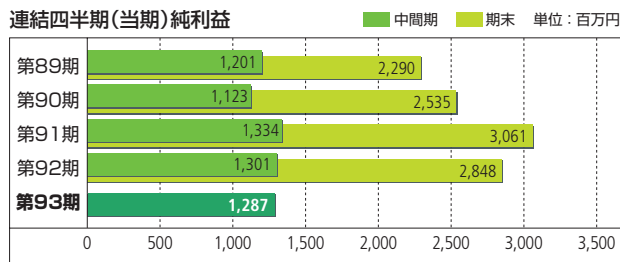
連結営業利益



連結経常利益



連結四半期(当期)純利益



四半期連結貸借対照表

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日 現在)	前連結 会計年度末 (平成21年3月31日 現在)
<b>資産の部</b>		
流 動 資 産		
現金及び預金	15,113	11,948
受取手形及び営業未収入金	27,993	24,792
商 品	589	212
販売用不動産	24	23
貯 蔵 品	108	87
仕 掛 品	195	194
そ の 他	4,950	4,174
貸 倒 引 当 金	△ 39	△ 17
流動資産合計	48,936	41,416
固 定 資 産		
有 形 固 定 資 産		
建物及び構築物	36,510	37,166
土 地	35,112	34,273
そ の 他	9,593	10,015
有形固定資産合計	81,216	81,454
無 形 固 定 資 産	3,296	2,558
投資その他の資産		
差入保証金	8,825	8,601
繰延税金資産	4,895	4,910
そ の 他	16,814	15,497
貸 倒 引 当 金	△ 246	△ 227
投資その他の資産合計	30,288	28,782
固定資産合計	114,801	112,795
資 産 合 計	163,738	154,212

百万円未満は切り捨てて表示しています。

単位:百万円

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日 現在)	前連結 会計年度末 (平成21年3月31日 現在)
<b>負債の部</b>		
流 動 負 債		
支払手形及び営業未払金	20,110	17,274
短期借入金	21,565	10,968
1年内償還予定の社債	—	7,000
未払法人税等	960	920
賞与引当金	2,706	2,723
役員賞与引当金	36	50
そ の 他	7,758	7,541
流動負債合計	53,138	46,477
固 定 負 債		
転換社債型新株予約権付社債	4,900	4,900
長期借入金	33,921	33,419
退職給付引当金	9,518	9,491
役員退職慰労引当金	268	40
特別修繕引当金	23	26
そ の 他	7,877	7,727
固定負債合計	56,509	55,604
負 債 合 計	109,648	102,082
<b>純資産の部</b>		
株 主 資 本		
資 本 金	18,345	18,345
資本剰余金	16,607	16,607
利益剰余金	18,385	17,520
自 己 株 式	△ 772	△ 778
株主資本合計	52,565	51,695
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	49	△ 26
為替換算調整勘定	0	△ 10
評価・換算差額等合計	50	△ 36
新 株 予 約 権	80	60
少数株主持分	1,393	411
純 資 産 合 計	54,089	52,130
負債純資産合計	163,738	154,212



## 四半期連結損益計算書

単位:百万円

科目	前第2四半期 連結累計期間 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)
営業収益	110,009	<b>107,994</b>
営業原価	101,732	<b>98,902</b>
営業総利益	8,276	<b>9,092</b>
販売費及び一般管理費	5,582	<b>6,329</b>
営業利益	2,694	<b>2,763</b>
営業外収益	662	<b>830</b>
受取利息	64	<b>85</b>
受取配当金	365	<b>434</b>
その他の	232	<b>310</b>
営業外費用	717	<b>895</b>
支払利息	434	<b>548</b>
その他の	283	<b>346</b>
経常利益	2,639	<b>2,698</b>
特別利益	110	—
特別損失	245	<b>482</b>
税金等調整前四半期純利益	2,504	<b>2,215</b>
法人税、住民税及び事業税	1,111	<b>900</b>
法人税等調整額	91	<b>44</b>
少数株主利益 又は少数株主損失(△)	0	<b>△ 16</b>
四半期純利益	1,301	<b>1,287</b>

百万円未満は切り捨てて表示しています。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	前第2四半期 連結累計期間 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,504	<b>2,215</b>
減価償却費	1,832	<b>2,410</b>
固定資産除却損	82	<b>232</b>
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△ 146	<b>△ 185</b>
賞与引当金の増減額(△は減少)	293	<b>△ 73</b>
受取利息及び受取配当金	△ 430	<b>△ 519</b>
支払利息	434	<b>548</b>
売上債権の増減額(△は増加)	△ 1,090	<b>△ 771</b>
たな卸資産の増減額(△は増加)	160	<b>△ 26</b>
仕入債務の増減額(△は減少)	△ 1,267	<b>312</b>
その他の	△ 332	<b>△ 1,119</b>
小計	2,040	<b>3,024</b>
利息及び配当金の受取額	87	<b>125</b>
利息の支払額	△ 443	<b>△ 567</b>
法人税等の支払額	△ 1,509	<b>△ 888</b>
営業活動によるキャッシュ・フロー	175	<b>1,693</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 1,684	<b>△ 1,026</b>
有形固定資産の売却による収入	169	<b>178</b>
投資有価証券の取得による支出	△ 42	<b>△ 8</b>
投資有価証券の売却による収入	25	<b>23</b>
子会社株式取得による支出	—	<b>△ 384</b>
関係会社株式の取得による支出	△ 134	—
関係会社株式の売却による収入	3	—
関係会社出資金の払込による支出	△ 47	—
その他の	△ 661	<b>223</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,371	<b>△ 995</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,200	<b>7,000</b>
長期借入れによる収入	1,500	<b>4,400</b>
長期借入金の返済による支出	△ 4,349	<b>△ 797</b>
社債の償還による支出	—	<b>△ 7,000</b>
自己株式の取得による支出	△ 13	<b>△ 2</b>
自己株式の売却による収入	5	<b>0</b>
配当金の支払額	△ 437	<b>△ 438</b>
その他の	△ 134	<b>△ 632</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 230	<b>2,529</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	<b>2</b>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,423	<b>3,230</b>
現金及び現金同等物の期首残高	12,317	<b>11,748</b>
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	59	<b>35</b>
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,954	<b>15,013</b>

百万円未満は切り捨てて表示しています。

会社概要

商 号 センコー株式会社  
 資 本 金 18,345,643,751円  
 創 業 大正5年9月  
 設 立 昭和21年7月  
 本 社 〒531-6115  
 大阪市北区大淀中一丁目1番30号  
 電話(06)6440-5155(代表)  
 事業所 221箇所  
 従業員 3,454名  
 貨物自動車 1,554輛  
 所有船舶 9隻  
 倉 庫 1,101,394㎡

主要な事業所

■営業本部

住宅物流営業本部  
 ケミカル物流営業本部  
 ロジスティクス営業本部  
 事業開発本部

■部支店

札幌主管、札幌南、仙台主管、仙台北、茨城、  
 埼玉主管、大宮、埼玉南、柏、東京主管、  
 南関東業務センター、東東京、神奈川、  
 関東住宅、千葉、静岡東、静岡西、  
 名古屋主管、中部業務センター、小牧、三重、  
 京滋主管、京滋東、大阪主管、  
 関西業務センター、阪神、南大阪、奈良、岡山、  
 広島、山口、九州主管、九州業務センター、  
 北九州、南九州、延岡、国際物流事業本部、  
 貿易、海運、通運、航空・KYN事業部

役員

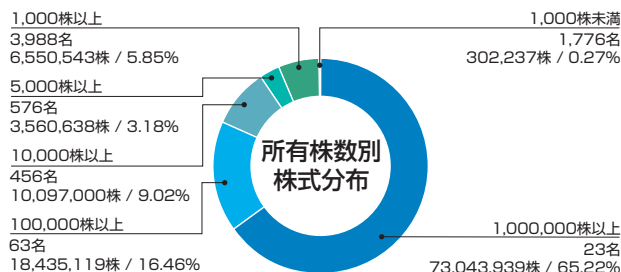
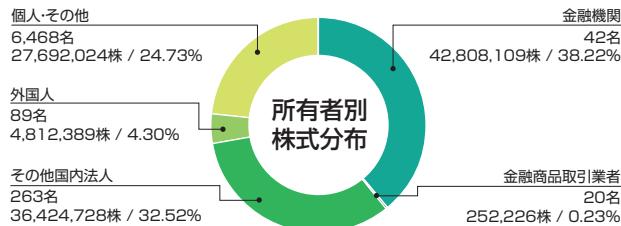
代表取締役社長 福田 泰 久  
 代表取締役副社長執行役員 渋 川 賢 一  
 取締役専務執行役員 手塚 武 與  
 取締役専務執行役員 高 橋 久 男  
 取締役専務執行役員 田 中 増 雄  
 取締役常務執行役員 田 中 健 悟  
 取締役常務執行役員 和 田 定 晋  
 取締役執行役員 森 本 康 司  
 取締役執行役員 菅 野 正 人  
 取締役執行役員 川 瀬 由 洋  
 取締役執行役員 尾 池 和 昭  
 常勤監査役 遠 山 泰  
 常勤監査役 岡 本 克 美  
 常勤監査役 辻 正 和  
 常勤監査役 松 本 雄 三  
 常務執行役員 山 中 一 裕  
 執行役員 滋 野 善 夫  
 執行役員 松 田 幸 次 郎  
 執行役員 寺 町 博 文  
 執行役員 山 本 隆 志  
 執行役員 白 木 健 一  
 執行役員 宮 津 純 二  
 執行役員 大 迫 友 行  
 執行役員 米 司 博  
 執行役員 谷 口 玲  
 執行役員 多 田 政 美  
 執行役員 佐 々 木 信 郎

子会社

○ センコー商事株式会社  
 ○ 株式会社センコー保険サービス  
 ○ センコー情報システム株式会社  
 ○ ロジソリューション株式会社  
 ○ 株式会社センコー引越プラザ  
 ○ センコーエーラインアmano株式会社  
 ○ 東京納品代行株式会社  
 ○ イヌイ運送株式会社  
 ○ 札幌センコー運輸株式会社  
 北海道センコーロジサービス株式会社  
 ○ 東北センコー運輸株式会社  
 東北センコーロジサービス株式会社  
 ○ 関東センコー運輸整備株式会社  
 ○ 埼玉センコー運輸整備株式会社  
 ○ 千葉センコー運輸整備株式会社  
 ○ センコーファッション物流株式会社  
 ○ 柏センコー運輸株式会社  
 ○ 神奈川センコー運輸株式会社  
 ○ 北陸センコー運輸株式会社  
 ○ 富士センコー運輸株式会社  
 ○ 大東センコーアポロ株式会社  
 ○ 東海センコー運輸株式会社  
 ○ 豊橋センコー運輸株式会社  
 ○ 三重センコーロジ株式会社  
 ○ 滋賀センコー運輸整備株式会社  
 ○ 大阪センコー運輸整備株式会社  
 ○ 阪神センコー運輸株式会社  
 ○ 岡山センコー運輸株式会社  
 ○ 三協貨物株式会社  
 ○ 山陽センコー運輸株式会社  
 ○ 中四国ロジスティクス株式会社  
 ○ 株式会社四国冷東運輸倉庫  
 ○ 福岡センコー運輸株式会社  
 ○ 南九州センコー株式会社  
 ○ 宮崎センコー運輸整備株式会社  
 ○ 宮崎センコーアポロ株式会社  
 ○ センコーフーズ株式会社  
 株式会社クレフィール湖東  
 ○ S-TAFF株式会社  
 センコービジネスサポート株式会社  
 ロジファクタリング株式会社  
 センコーメディカルロジスティクス株式会社  
 ○ 株式会社丸藤  
 Senko Logistics(USA) Inc.  
 Senko(USA) Inc.  
 大連三興物流有限公司  
 扇興物流(上海)有限公司  
 上海扇興国際貨運有限公司  
 ○ 広州扇興物流有限公司  
 Senko International Logistics (Hong Kong) Ltd.  
 Senko (Thailand) Co., Ltd.  
 ○ Senko International Logistics Pte. Ltd.  
 (注)○は連結子会社を示しております。

## 株式の状況

発行可能株式総数 294,999,000株  
 発行済株式総数 111,989,476株  
 株主総数 6,882名



## 大株主（上位10名）

株主名	所有株式数(株)	所有比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	13,728,000	12.26
旭化成株式会社	10,676,726	9.53
センコーグループ従業員持株会	6,830,743	6.10
積水化学工業株式会社	6,785,900	6.06
三菱UFJ信託銀行株式会社	5,060,000	4.52
東京海上日動火災保険株式会社	4,439,170	3.96
エイアイジー・スター生命保険株式会社	3,200,000	2.86
ニッセイ同和損害保険株式会社	3,169,655	2.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,997,000	2.68
いすゞ自動車株式会社	2,939,689	2.62

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 大阪証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.senko.co.jp/">http://www.senko.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に公告いたします。)

## (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



〒531-6115 大阪市北区大淀中一丁目1番30号  
TEL. (06)6440-5155(代表)

URL <http://www.senko.co.jp/>

